

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第 1279 号	氏名	松本桂太郎
論文審査担当者		主査教授	下川 功
		副査教授	河野 茂
		副査教授	兼松 隆之
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 肺切除後の残存肺の代償性増殖における Keratinocyte growth factor (KGF) の役割を明らかにしようとした研究であり、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価 ラットの肺切除モデルにおいて、肺組織中の KGF、KGF 受容体 (KGFR) の発現、肺胞上皮の細胞増殖を免疫組織学的に検討した。また、KGF-FLAG 発現ベクターを複製し、electroporation による肺への遺伝子導入を行い、細胞増殖や構造の変化を評価した研究手法も妥当である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、残存肺で、KGF、KGFR、PCNA の発現が、肺胞 II 型上皮を中心としてみとめられた。In vivo 肺における KGF-FLAG ベクター導入によっても細胞増殖、肺胞隔壁の形成を示唆する結果が得られた。以上から KGF が肺の代償性増殖、再生において重要な因子であることを示唆した点から、今後、肺再生への臨床応用が多いに期待される。</p>			
<p>以上のように、本論文は肺代償性増殖における分子基盤の解明に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			